

産経新聞 2020年12月28日 「ひこばえ倶楽部」への投稿掲載

(令和2年度入学) 高校1年 (六か年コース) C組 藤井 健太郎 君

僕には2人の姉妹がいます。姉は今年、大学受験に臨み、無事合格することができました。

姉は頭がよく、学年1位にも何度かなっていると聞きました。一度ノートを見たことがあります。僕の汚いノートとは違って、きれいに書き分けられていて、こういうところですら差があるんだなと感じました。

対して妹のノートは字の大きさがバラバラで、色分けもせず読みにくいものでした。「これで読めるのか」と聞くと、「健には読めんくても私が読めたらいいやん」と返されました。

他人が読めないほど汚いノートも、自分が読めるのなら、自分にとってきれいなノートになります。どちらがいいとは言いきれないと思いました。

ノートのきれい汚いが成績を左右するのではなく、ノートをいかに活用できるかだと思います。これからはしっかりとノートを生かして学習していきたいです。